

# 地域医療連携ニュース



# No. 7

2019.9.30

## ごあいさつ

院長補佐 亀井 良政

異常気象が頻繁に報告されるようになり、災害時医療にも目を向ける時期になっておりますが、幸いこの地域では大きな災害は発生していないようで安堵しております。

先生方には日頃より当院の事前予約システム“カルナ”をご利用頂き、感謝申し上げます。私の担当する産科では、胎児の先天異常が疑われて妊婦患者さんをご紹介頂く場合には、国際専門医資格を有している産婦人科医師でなければ評価できません。初回の診察時には胎児の評価を全て実施し方針を決定する必要があり、詳細な評価を行うため、診察時間は1回1時間以上を必要とすることが珍しくありません。予め“カルナ”でご予約を頂いていると、患者さん本人にとっても待ち時間なく十分な時間を取って診療を受けられますから、患者さんやご家族あるいは紹介元施設の先生方からも好評を頂いています。

産婦人科に限らず、全診療科において患者さんの待ち時間は大きな問題ですが、特に十分な診療時間の確保が望まれる初診患者さんの待ち時間の解消のためにも、先生方には“カルナ”システムのご利用をお願いいたします。

何かご不便がございましたら、どうぞ当院地域医療連携室までご連絡ください。宜しくお願い申し上げます。

## Contents

最近の知見…………… 2  
ゲノム医療科

診療科のご紹介…………… 3  
神経精神科・心療内科  
整形外科・脊椎外科

新任医師のご紹介…………… 4  
皮膚科  
血管外科  
総合診療内科  
病院長からのエール

第39回埼玉医科大学・連携施設懇談会…………… 6

看護部から…………… 7

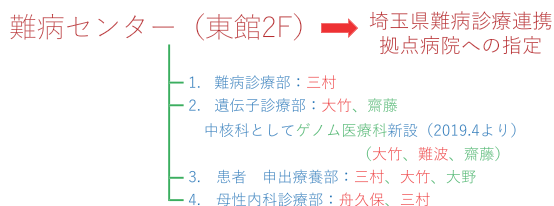
提携医療機関から  
坂戸内科医院…………… 8  
若葉こどもクリニック…………… 9

地域医療連携室から  
カルナ（インターネット予約システム）のご利用…………… 10

# 最近の知見：難病センター遺伝子診療部（ゲノム医療科）

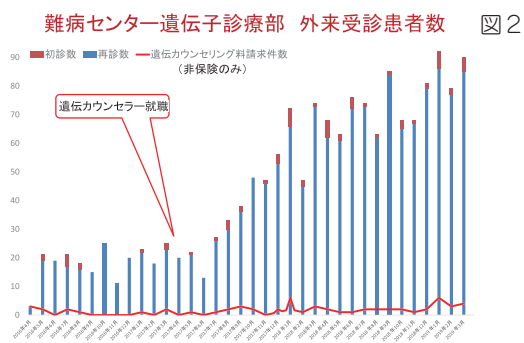
当院は、国の新難病医療体制の開始に伴い難病センターを2015年4月1日より開設し、2016年度から本格稼働、2017年4月から常勤遺伝カウンセラーも就職し、本年2月1日には埼玉県から難病診療連携拠点病院の指定を受けました。図1に難病

図1



センターの概略をお示しします。難病センターは、難病診療部（難病診断、治療、難病相談）、遺伝子診療部（遺伝子診断、遺伝相談・カウンセリング）、患者申出診療部（患者申出療養制度による最新の診療情報提供）、母性内科診療部（妊娠準備、妊娠中、出産前後、授乳など育児関連における難病の管理）の4診療部から構成されています。この4月から大学病院にはゲノム医療科が創設され、診療部長の大竹、遺伝カウンセラーの齋藤に加え、産婦人科から難波を准教授として迎え、遺伝子診療部の中核を担う役を担っています。

図2に難病センター遺伝子診療部の外来受診患者数



の推移を示します。センター受診総数も、遺伝外来受診患者数も順調に増加しており、受診患者さんおよびご家族の評判も上々です。その声を拾うと、「静かで広々としている」、「重厚感のある扉や壁で安心して話せる」、「大勢の家族で来院してもゆったりできる」等です。本年3月より保険診療による遺伝学的検査施行の場合の遺伝カウンセリング加算(1000点)の指定病院も獲得しました。

最後に最新知見として希少疾患の医療と研究を推進する会 (CReARID: <http://www.crearid.or.jp/>、

理事長・大竹) を紹介します。現在日本では新生児を対象に20疾患に対して公費でスクリーニングが行われていますが、この20疾患以外にも早期発見・早期治療が必要かつ有効な疾患は存在し、今後の医療の発展に伴いスクリーニング対象疾患はますます増加する傾向にあります。図3にオプションスク

オプションスクリーニング対象疾患 図3

- 2018年2月から
  - ・ボンベ病
  - ・ムコ多糖症I型
  - ・ファブリー病 (男子のみ)
- 2019年4月から追加
  - ・重症複合免疫不全症
  - ・ムコ多糖症II型
  - ・ムコ多糖症IVA型
  - ・ムコ多糖症VI型
- 2019年10月頃から追加予定
  - ・副腎白質ジストロフィー

リーニング対象疾患を示しますが、CReARIDは各産科病院と契約し保護者の方の同意の上で有料で実施しております。

## 開業医の先生方へのメッセージ

私どもの得意疾患はミトコンドリア病 (Mt病) で、この出生前診断に関しては日本で唯一と言っても良い施設で、現在までに20例以上を手がけております。Mt病に関しては臨床上也研究上も世界との共同研究を進め、かつ競争もしております。これ以外でも遺伝に関することでしたら、何でもご相談下さい。年齢も問いません。先日も43才の体質性黄疸の方が受診され、まもなくDubin-JohnsonかRotorかの診断がつきます。また現在Huntington舞蹈病の方の発症前診断も進行中です。

診療ご希望の場合には、下記窓口にお電話いただきご相談ください。完全予約制で対応いたします。

難病センター（相談窓口） 電話 ☎ 049-276-1741



難病センター遺伝子診療部（ゲノム医療科）のメンバー：左から、難波 聡 准教授、齋藤 恵 認定遺伝カウンセラー、大竹 明 教授（診療部長）

● **神経精神科・心療内科 教授 松尾 幸治 (マツオ コウジ)**

最近の当科での診療連携に関するニュースといえば、本年6月より医師、看護師、心理士、ケースワーカー等とリエゾンチームを編成し、他の診療科の入院患者さんを対象にリエゾン回診を開始したことです。これにより、これまで以上に適切な精神科医療のサービスが提供できると期待しています。

今年度より、当科の特徴は、精神科三次救急、気分障害、てんかんを主軸とすると明確にしました。当科の精神科救急医療は、他の診療科と連携し濃密な管理が必要な身体疾患及び重症の精神疾患の両方をもつ患者さんを受け入れる体制を整えています。こうした体制を敷いているのは県内唯一です。気分

障害は、双極性障害（躁うつ病）や薬物反応の乏しいうつ病といった治療に難渋する患者さんを地域から積極的に受け入れ、ECT（電気けいれん療法）、光トポグラフィー検査など専門性の高い診断・治療を提供しています。てんかんについては、当院てんかんセンターの一翼を担い、ビデオ脳波検査入院を常時実施し、てんかんの診断・評価の他、随伴の精神症状のコントロールを行い、地域に戻っていただいております。もちろん、県内精神科医療で当科が求められている他の精神疾患の治療は継続して行って参ります。



**診療部長のご挨拶**

2019年4月より診療部長を拝命しました。精神科はその医療内容が他の診療科の先生方に伝わりにくい科の一つです。当科の医師、看護師、他の医療関係スタッフは、あらゆる精神疾患への対応ができる能力を有していると自負しておりますが、当科の特徴を示すメッセージとして上記の3つを挙げさせていただきました。

神経精神科・心療内科 松尾 幸治  
外来☎：049-276-1282

**診療科のご紹介**

● **整形外科・脊椎外科 教授 門野 夕峰 (カドノ ユウホ)**

整形外科のほぼ全領域を網羅した診療を行い、リウマチ、股関節、脊椎・脊髄、スポーツ・膝関節、手外科、肩関節、足の外科、骨粗鬆症などの専門外来診療を行っています。一般整形外科の手術はもちろんのこと、特定機能病院として高度な医療を提供すべくナビゲーションシステムを応用して、より正確かつ安全に手術を行う取り組みを行っています。

また地域の中核病院として救急患者の受け入れもを行い、急性疾患から慢性疾患に至るまで幅広い診療を行っています。ご相談になりたいことがありましたら、下記まで連絡をいただけますようお願いいたします。

専門外来担当表（午後）  
整形外科外来：049-276-1289  
月 手外科診、側彎診（第1、3、5週）  
火 脊椎・脊髄診  
水 肩診、足の外科診（第1、3週）  
木 スポーツ・膝関節診、乳幼児診、リウマチ診  
金 リウマチ診、股関節・人工関節診、骨粗鬆症診

※詳細は埼玉医科大学病院 HP (<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/index.html>) にてご確認ください。



**診療部長のご挨拶**

リウマチ診療を専門にしており、関節リウマチ以外にも乾癬性関節炎、強直性脊椎炎などの難病指定疾患の診療も行っています。あらゆる部位の手術を行うだけでなく、他診療科とも連携しながら、薬物治療と外科的治療を含めたトータルケアの実践を目指しています。相談症例がございましたら、ご連絡をいただけたら幸いです。

整形外科・脊椎外科 門野 夕峰  
外来☎：049-276-1289



● **皮膚科 教授 常深 祐一郎 (ツネミ ユウイチロウ)**

2019年4月1日付で埼玉医科大学病院皮膚科教授を拝命いたしました。アトピー性皮膚炎、乾癬という炎症性皮膚疾患、皮膚真菌症、抗酸菌感染症、疥癬という皮膚感染症を専門としております。平成11年に東京大学医学部を卒業し、大学院ではアトピー性皮膚炎や乾癬の研究を行いました。2010年に女子医大に移りましたが、この頃から乾癬に生物学的製剤が利用できるようになり、経口薬や生物学的製剤などを活用して、難治例のコントロールをしてきました。長年苦労されてきた患者さんが非常によくなり満足されることにやりがいを感じています。最近アトピー性皮膚炎にも生物学的製剤が登場しました。新規外用薬や経口薬の開発も進んでいます。重症例もコントロールできる時代になりましたが、誤解も多い疾患なので、正しい情報発信を意識しています。皮膚真菌症でも新規経口抗真菌薬が承認されました。このように私の専門領域では大きな進歩が続いています。

本学では基本となる局所療法から新しい全身療法まで最大限に駆使し、患者さんに喜んで頂ける医療を実践する所存であります。地域の先生方のお役に立てるよう精進いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。



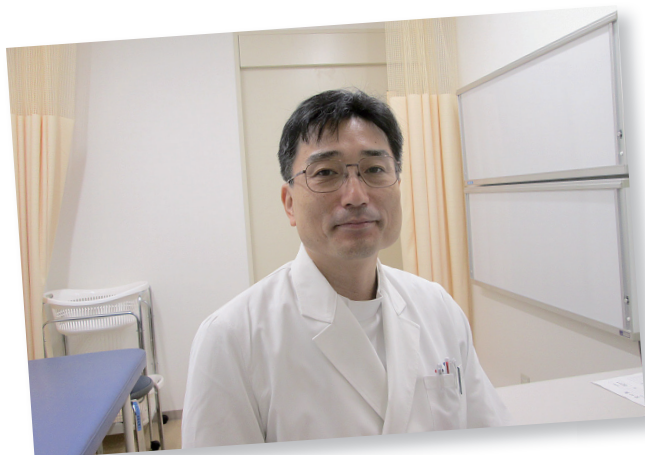
**新任医師のご紹介**

● **血管外科 教授 松本 春信 (マツモト ハルノブ)**

2019年5月1日付で埼玉医科大学血管外科教授を拝命いたしました。私はさいたま市（旧浦和市）出身で、1994年に山梨医科大学を卒業し、母校の外科へ入局しました。専門を血管外科として、2001年から約11年間 埼玉医科大学総合医療センター 血管外科に勤務しております。その後、自治医科大学さいたま医療センターで末梢血管診療に従事し、2016年から当院の非常勤医として、血管外科外来を担当しておりました。

このたび、血管外科診療充実のために当院へ赴任できましたこと、大変光栄に存じます。

血管診療は全身の脈管疾患を対象とし、動脈瘤、動脈解離、動脈閉塞症、静脈瘤、静脈血栓症、血管形成異常、透析アクセス関連治療など、その診療範囲は多岐にわたります。当科では、四肢の動脈閉塞症、下肢静脈瘤、透析アクセス作成困難例などの末梢血管診療を中心に、大動脈瘤に代表される大血管疾患については国際医療センター心臓血管外科と連携をとりながら、診療にあたってゆきたいと考えております。今後は、地域医療への貢献と血管疾患の啓蒙に尽力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

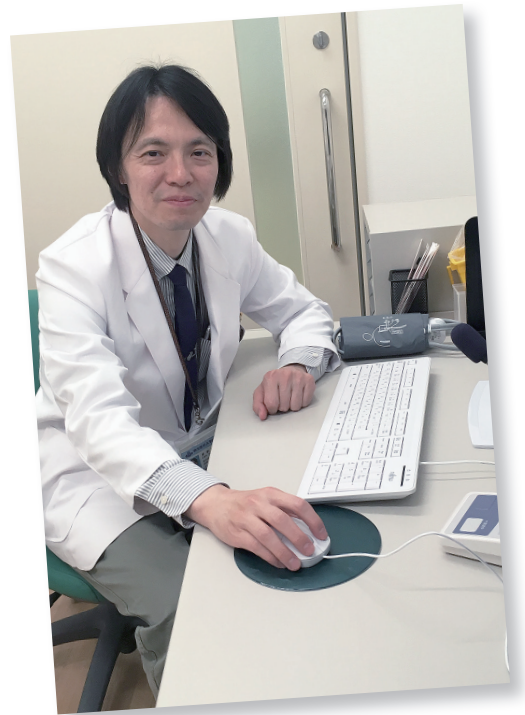




● **総合診療内科 教授 木村 琢磨 (キムラ タクマ)**

この度、2019年5月1日付けで、大学病院 総合診療内科 教授を拝命致しました木村琢磨と申します。どうか宜しくお願い致します。

私は長野県に生まれ、母校 東邦大学の医学生時代、診療所、在宅医療、ホスピスなどで実習を行う機会を得まして、これらを学ぶべく、これまで総合診療医として研鑽を重ねてまいりました。これまでの大(学)病院、市中病院、医師不足地域の診療所などでの経験を活かし、多くの症状を併在する方や、多くの疾患を有する患者などの診療を、学内の専門診療科をはじめ、丸木記念福祉メディカルセンター、HAPPINESS 館クリニックと連携しつつ積極的に行う所存です。地域の皆様方、先生方に少しでもお役に立つ様、努力致しますので、どうか何卒宜しくお願い致します。



**新任医師のご紹介**

● **新任医師へ病院長からのエール**

常深祐一郎先生は、4月1日付で皮膚科教授として東京女子医大から赴任されました。専門はアトピー性皮膚炎、乾癬、真菌や抗酸菌などの皮膚感染症です。これらの疾患は、治療に難渋する症例も少なからずありましたが、最近では生物学的製剤や新規治療薬によって大きな治療効果が期待できるそうです。当院皮膚科診療の発展に寄与して頂けるものと期待しております。

松本春信先生は、以前埼玉医大総合医療センター血管外科に11年間勤務しておられたというご縁により、2016年から当院で専門外来を担当していただいていたのですが、5月1日付で血管外科教授として自治医大さいたま医療センターから赴任されました。国際医療センターとも連携の上で、この地域の血管外科診療を充実させて下さるものと期待しております。

木村琢磨先生は、この4月に北里大学医学部地域総合医療学講座から丸木記念福祉メディカルセンターに赴任され、この5月1日付で総合診療内科教授に就任されました。

当院では、総合診療の一翼を担っていただくとともに、丸木記念福祉メディカルセンターでは引き続き訪問診療を中心とした地域医療の充実に尽力して頂けるものと期待しています。



## 第39回埼玉医科大学・連携施設懇談会を開催しました

埼玉医科大学は、去る6月26日に川越プリンスホテルにおいて第39回埼玉医科大学・連携施設懇談会（以下、懇談会）を開催致しました。

学術講演では、埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科 加藤真吾准教授に「炎症性腸疾患の治療最前線～病診連携から考える今後の展望～」と題した講演をいただきました。



加藤 真吾 先生

特別講演には、九州大学 名誉教授 尾形裕也先生をお招きして「超少子・高齢社会における医療・介護の将来像」と題して、我が国の近年の医療・介護体制の動向と今後の人口や地域の変化を踏まえての医療・介護の未来像など解りやすく大変参考になるお話をいただきました。



尾形 裕也 先生

懇談会は、先生方との連携を一層深める重要な機会として継続しており、今回で39回を迎え、約500名の参加者のもと盛大に開催することが出来ました。これも先生方のお力添えと感謝致しております。

今後も懇談会にご協力いただきますようお願い申し上げますと共に、先生方の益々のご健勝とご活躍を祈念致します。

埼玉医科大学・連携施設懇談会事務局





## ● 看護部から

埼玉医科大学病院では糖尿病看護認定看護師3名が病棟と外来に在籍しています。また、糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが36名おり、糖尿病を持つ患者さんの支援に携わっています。

近年、患者さんの背景が多様化し、糖尿病治療の選択肢は格段に広がりました。治療を適切に実施するためには患者さん自身が必要な情報を得てセルフケアに活かしていく必要があります。当院ではCSII（持続皮下インスリン注入）療法やFGM（皮下連続式グルコース測定）を活用した治療を実施しています。その効果を最大限に得るために、スタッフがそれぞれのデータを元に患者さんと共に生活を振り返りながら情報提供や生活調整を行っています。

また、糖尿病患者さんにとって重要な足のケアについては糖尿病教室や糖尿病教育入院での集団指導の他、個別相談をお受けしており、更に看護師の継続的なケアが必要な方については受診時にフットケアを受けられる仕組みがあります。そして、糖尿病性腎症予防外来では、腎臓専門医・糖尿病専門医・管理栄養士・看護師（糖尿病看護認定看護師または糖尿病療養指導士）がチームとなり、診療アドバイス・栄養指導・生活調整に向けた支援等を実施して

います。今後は更に地域の先生方と連携を図り治療やケアにおいて貢献できる方法を検討していきたいと考えております。該当の患者さんがいらっしゃいましたら、どうぞご紹介いただけますようお願い申し上げます。



## 地域医療連携室から

### 医療機関の皆様へ

地域医療連携室では、医療推進、機能分化に伴う集約的な窓口として、医療機関からのカルナ（インターネット予約システム）やFAX紹介による診療予約受付、外来担当医表の発送、などを行っています。

紹介元の先生方からの**患者紹介に関する問い合わせ（受診相談、転院相談等）**については、**直接該当科外来**へお電話をお願い致します。

連携医療機関からの各種問合せに関して迅速に対応させていただきます。また、紹介医療機関への報告書（お返事）が滞ることのないように、病院連携システムにて管理しております。未報告に関しては外来と連携をとり対応させていただきます。

### 患者さんをご紹介頂くにあたって

当院では地域の医療機関と、患者さんに一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ることを目的として提携医療機関・登録医制度を設けています。登録頂きカルナ（インターネット予約システム）をご利用頂きますとインターネットで診療及び検査の予約が行えます。

### 診療連携シンフォニーについて

埼玉医科大学病院は地域の先生方との顔の見えるきめ細かい情報交換を行い、さらに地域との連携を深めてまいりたいと考えています。

紹介していただいた地域の先生方に、患者さんのその後の経過を主に診療科の特色等も交えながら2012年から毎年2回開催している報告会です。

地域医療連携室 049-276-1876



# カルナ（インターネット予約システム）の利用

## 提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

## 提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

### 1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶カルナシステムを利用されたい方は、申請届を提出する際に申し出てください。

申請届をインターネットよりダウンロード

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/system.html>

プリントアウト

必要事項を記入

カルナ利用をご希望の方

郵送または FAX

当院より登録証を送付

※カルナ利用希望の方のみ別途書類を送付いたします。

提携医療機関・登録医 申請届

令和 年 月 日

埼玉医科大学病院

病院長 織田 弘美 殿

私は、埼玉医科大学病院 病診連携システム（提携医療機関・登録医制度）の主旨に賛同し、登録申請いたします。

登録医師名 1 医療機関1名（理事長・院長・所長等を明記）

医療機関名

診療科目名

郵便番号

医療機関所在地

電話番号

FAX 番号

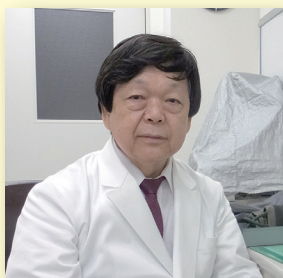
カルナ希望 あり なし（どちらかに○をつけてください）

## 提携医療機関から

### 医療法人社団 坂戸内科医院（坂戸市）

当院は、北坂戸に開業し26年になります。内科、小児科、東洋医学を、標榜し毎日多くの患者さんに来ていただいています。開院当初から、“畳の上で看取る”を、モットーに在宅医療も、行っています。現在関連施設として、グループホーム2か所（北坂戸、狭山市柏原）、サービス付き高齢者向け住宅（北坂戸）、訪問看護ステーション、訪問介護、居宅介護支援所の運営をしています。外来診療で、緊急を、要する患者さんは、埼玉医科大学国際医療センター、または埼玉医科大学病院のERにお願いし非常に助かっています。亜急性の患者さんは、自宅で夜、カルナシステムに入力し、予約。患者さんは、決まった先生に予約で見て頂き、非常に感謝されています。

理事長・院長：千田 宣克



### 医療機関情報

診療時間：午前 9:00 ～午後 0:30

午後 3:30 ～午後 7:00

午後 3:00 ～午後 5:00(土曜)

日曜は午前のみ

休診日：水曜、祝日



### 2-1. 患者紹介（外来診療予約）について

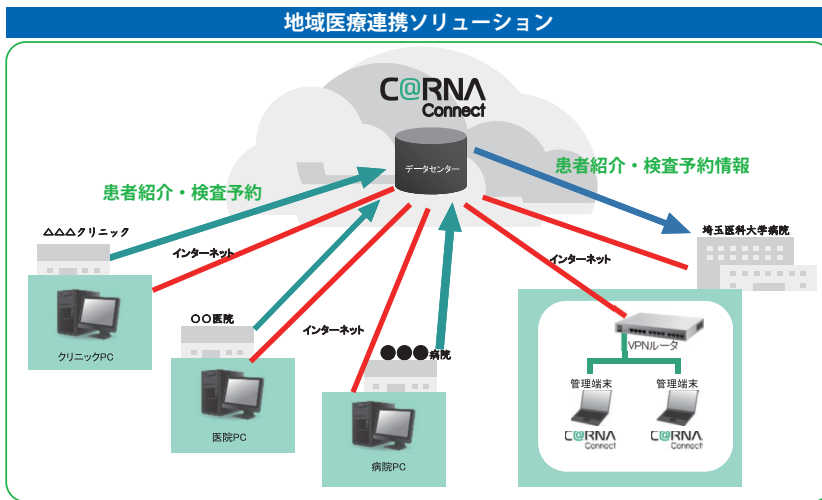
- ① カルナシステムでは、指定の予約枠に入力していただくことで、予約が取得できます。
- ② 患者さんは医務課での初診受付は必要なく、直接診療科外来で受け付け、お待ちいただけます。

### 2-2. 特定の検査の依頼について

- ▶カルナでは、CT 検査、MRI 検査、アイソトープ検査、骨シンチ、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査もご利用できます。
- 検査終了後すみやかに、専門医の読影報告書を送付いたします。

### 2-3. 受診報告について

- ▶紹介患者さんが受診後には、報告書を送付させていただきます。



新規カルナ登録医療機関 (H31.4 ~ R1.7)			
埼玉療育園	寄居町	院長	松本 延幸
わたなべ整形外科	富士見市	院長	渡部 仁一
大谷整形外科病院	東松山市	理事長	大谷 正
五十嵐整形外科医院	寄居町	理事長	五十嵐勇人
武井整形外科	千葉県木更津市	理事長	武井 紀夫
おとだ整形外科内科クリニック	東京都羽村市	理事長	乙田 誠一
ホームクリニック えにし	東京都練馬区	院長	天本 健司

## 若葉こどもクリニック（鶴ヶ島市）

2008年12月に開院し、地域に密着したファミリークリニックを目指して診療を行っております。小児医療に関しては、感染症、アレルギー、発達障害、夜尿症、低身長、肥満症などの専門領域についても診療を行っております。カルナシステムにより、小児科のサブスペシャリティの先生方や小児科以外の診療科の先生方に、患者様を紹介させていただいています。さらに、MRI、CT、超音波検査についても、直接予約を利用させていただいています。画面を見ながら専門の先生方にご紹介可能な事は、患者様の安心感も強く、画像が専門医からの読影結果とともに返送され、自院で画像を見せながら説明できることは、大変ありがたいと感じております。

院長：山崎 勉



### 医療機関情報

診療科目：小児科・アレルギー科・内科  
 診療時間：午前 9:00 ~ 午後 0:00  
 午後 2:30 ~ 午後 6:30  
 （土曜日は午後 1:00 ~ 午後 4:00）  
 休診日：木曜日午後、日曜日、祝日



## 埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる  
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長  
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

## 埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

## 埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

## 病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

## 患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

## 小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター・中毒センター：049-276-1199  
地域医療連携室（カルナ・FAX 紹介）：049-276-1876  
番号案内：049-276-1111

医療福祉相談室（退院調整）：049-276-2119  
セカンドオピニオン受付：049-276-1121



## 埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース（7号）

発行：埼玉医科大学病院  
発行責任者：織田 弘美  
編集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会  
編集責任者：篠塚 望  
電話：049-276-1876 地域医療連携室  
住所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38  
発行日：2019年9月30日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。